

好天に恵まれ熱戦を展開 ●●竜丘市民運動会●●



九月の週末はぐずつく日が多かったが、天候が心配されましたが、前日の準備も含め、晴天に恵まれました。

聖火は、長野原分館の子どもたちから始まり、区内を一巡。校庭のトーチに鮮やかに点火され、国旗掲揚後、力強い選手宣誓で競技が始まりました。

分館対抗は、分館の名譽をかけ、白熱した場面が多くみられました。

早く長く親子で協力は、麻袋に入った数種類の長さのロープを一本ずつ引きつなげ、早く規定の長さに達するかが勝敗のポイントでした。どの長さのロープを引くかは、運次第です。数メートルのロープを引ければ一気に順位が変わります。選手たちは、ロープを引く瞬間は祈るような気持ちでたてました。分館長に挑戦

各分館では、子どもたちが創意工夫して練習を積み重ねた応援が行われました。応援大賞の講評では「日の丸扇子と黄色リボンのコントラストが良い」「子ども数少ない中、一年生から総動員の応援は、感動に値す」「よく揃っていました。どの

は、十五名が対戦する分館長にジャンケンで勝負しました。今年、地域自治組織発足にあたり地域づくり委員会の方々が選手として参加しました。分館長とのじゃんけんですので、お互いの手のよみ合いが、勝負の分かれ目だったのではないのでしょうか。

一般種目にも、多くの方の参加がありました。かけっこは、例年を見込んで用意した景品が足りなくなり、別の景品で対応する程の参加者がありました。また、好評のパン食い競争は、二歳くらいの子どもを抱えて走るお母さんの姿もあり、多彩な参加者で賑わっていました。

今年度は、例年遅れがちになる競技の進行時間を、予定通りに進めることを特に意識し行われました。その為に、進行係の設置や放送配線の変更を行い、選手集合時間の徹底を行いました。この結果、どの種目も予定開始時間より早めに進行することができました。

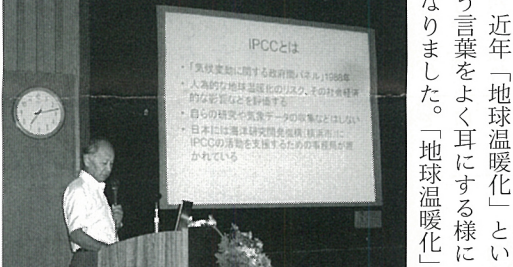
時間厳守は、当り前のことのようにですが、このような大規模な行事では中々難しいものです。



分館も頑張りました。努力をたたえる感想が出されました。

分館対抗の得点経過は、序盤から長野原分館がトップに立ち、終始リードを保ち、最終種目の年次むかでを迎えました。

年次むかでは、息のあったむかでの追いつ追われつの中に汗握る展開がくりひるげられ、女子は桐林分館が、男子は上川路分館が一位となりました。



今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

近年「地球温暖化」という言葉をよく耳にする様になりました。「地球温暖化」

私たちが目先の発展のために自然を利用し、資源を喰い荒らすかのようになっています。ところが、地球上のいたる所で悲鳴が上がり始めた時、「あれ?! 何かおかしいぞ」と気付きました。夏なのに肌寒い日が続く冷夏、その逆の猛暑、今年、三十三度以上の猛暑日は、飯田で五回、南信濃九回、



今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

近年「地球温暖化」という言葉をよく耳にする様になりました。「地球温暖化」

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

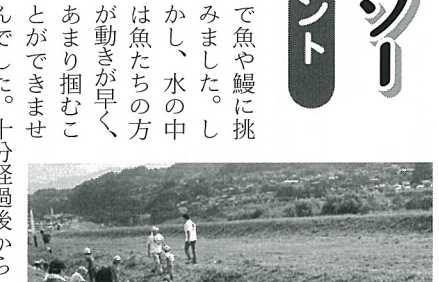
人口	6,813人
男子	3,350人
女子	3,463人
世帯数	2,215戸
(19年9月末現在)	

今年も元気に魚とつたゾー
水辺の楽校交流イベント

九月九日に第六回水辺の楽校交流イベントが行なわれました。昨年度までは青少年健全育成会を中心に新設された社会委員会を中心に開催されました。

晴天に恵まれた当日。開校式での「今日は何をしたのですか」との質問に子どもたちは、「魚とり」と目を輝かせていました。

開校式に続いて、各委員会の用意した催しが行なわれました。「笹舟流し」では、家から作ってきた自慢の舟を流して、各委員会の用意した催しが行なわれました。



今年も元気に魚とつたゾー
水辺の楽校交流イベント

今年も元気に魚とつたゾー
水辺の楽校交流イベント

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

今年、第二十九回目となる竜丘市民大学講座は、「異常気象発生の原因を探る」という演題で、気象予報士の今村理則さんの講演を聴きました。

質の高い作品と研究の発表!!

竜丘地区文化祭



特別企画展会場

十一月十一、十二日の両日、平成十九年度の竜丘地区文化祭が竜丘公民館で行われました。特別企画展や盛りだくさんの展示、催しが行われ、多くの地区住民の皆さんが訪れて終日賑わいました。

当日は、公民館前にてオーピングセレモニーが行われ、テープカットで文化祭が開幕しました。館内は、ホールをはじめ

として各部屋や廊下まで、各種団体やグループの日頃の活動成果などさまざまな展示品が所狭しと飾られ、その一つひとつは訪れた方を楽しませ

てくれるように創意工夫されています。今年の特展は「開善寺で生活した疎開児童たち」昭和十九年八月から二十年十一月にかけて東

京都世田谷区の守山小学校の学童七十一人は、開善寺を宿舎として竜丘国民学校

に通り、疎開生活を送りました。民俗資料保存委員会が今年発行した「続々々丘の語り部たち」に、疎開児童の一人である伊藤幸子さん(埼玉県在住)が当時の思い出を寄稿したこと

から、展示室には、当時の手紙や開善寺山門前の相撲大会などの行事の写真など貴重な資料が展示され、訪れた人たちの注目を集めました。特に手紙には子どもたちが竜丘で過ごした日々が生き生きとつづられており、親からの手紙からは、子どもの安否を案じたり、励ましたりしていた様子うかがえました。

またこの企画展に併せて十一日には、疎開生活をした三人(伊藤さん、宮原弥太郎さん、野澤福代さん)と当時開善寺で寮母を務めていた関島文子さんが出席して座談会が行われ、久しぶりの再会を喜びながら懐かしそうに当時の様子を振り返りました。

今回の企画展では、集団疎開という戦時下のなかでも、竜丘の自然に触れた体験や遠く離れた親子の絆の深さを知ることができたと



クラフト工芸に熱中する子どもたち

園児手作りのカマキリやバッタなどの案山も展示され、訪れた子どもたちの注目を集めていました。そのほかの催し物も多彩に行われました。子どもたちに大人気の財産区のクラフト工芸、茶道教室の茶会コーナー、喫茶軽食コーナーなどどれも好評で終日賑わいを見せていました。

文化祭に訪れた人たちは思い思いに展示や催しを楽しみ、ふれあいができました。今年も充実した文化祭となりました。

竜丘地区の市政懇談会が十月四日、竜丘公民館ホールで開催され、地区民約百人が参加しました。今回は、子育て支援をテーマにして

いることもあり、子育て世代が参加しやすいように、初めて託児所が設けられました。

第一部では、「これからの人材サイクル」文化経済自立都市の実現にむけての説明がありました。高校を卒業し進学のため一時的に市外へ出た後、最

安心・安全な竜丘を目指して

合同研修視察第二回実施される

北澤 恭子

十一月十三日、竜丘地域づくり委員会・竜丘自治会の合同研修視察が実施されました。これは八月に行われた研修視察の第二弾で二十三名が参加しました。秋晴のすっきり澄みわたった日、誰かが「もったいない。家で仕事をしとりたい良かった!」の声に大笑いし、紅葉を愛でながら、最初の目的地、王子製紙春日井工場へ向かいました。春日井工場では、全体の説明を受けたあと、工場内をバスでまわりました。トレットペーパーのように小さく切断され箱詰めされる工程と、ケント紙のような紙になる途中の工程等見学しました。ホッチキスの

子どもたちの地域を支える力と心を育てる、新しくすくプランで生み育てやすい環境の充実に努める等々政策の説明がありました。第二部では、地域課題について意見交換を行いました。

天竜橋の架け替え工事や周辺道路、商店街の整備等の要望について、二十一年度に橋が完成、次年度に市道の付替をする。周辺整備はまず地域で将来像を考えてほしいと答弁がありました。

古墳公園と考古資料館の駐車場対策など観光による地域振興について意見を述べました。資料館は順次整備を進めている、観光バスの駐車場は地元で考えがあれば示して欲しいと話がありました。

地域づくりに役立つボランティアの確保や養成に対

針は取れるが、雑誌等の糊づけされた本は糊がとれにくく手がかる事を知りました。いづれにしても、リサイクルして使うため、分別・選別をしっかりやる必要を感じました。

次は、名古屋市の防災センターの研修です。地震体験では、過去の大地震の再現で体験しました。揺れがそれぞれ違うので、いざとなるとすばやい行動がとれません。

煙避難体験は、まっ暗な煙の満ちた部屋から早く脱出する支援については、災害助け合いマップ作成の取り組みを通じて、日常の助け合いの輪が広がることを期待している。又、地域には様々な人材がいるので、その力を結びつけるよう、自治振興センターで支援したいと回答がありました。十一月からモデル地区として行われる放課後子ども教室については、設置と活動の支援の協力を求めました。市は、竜丘の地育力を見込んでモデル地区をお願いした。ボランティアでの運営は大変であるが情報提供やアドバイスなど支援したいとの回答がありました。

地域の活力は、そこに住む人の力であり、地域を担う若い

出口をさがして避難する訓練ですが、先に入った人達より、後から入った人達の方が先に避難してきたりと、笑えない状況がおりました。いくつかの体験をして、我が家の安全点検、非常持出品の準備の必要性を痛感させられました。

途中、徳川美術館へよって鑑賞したりと、楽しい研修でした。

(福祉健康委員会・副委員長



あ 地震だ! 机の下へ

地域のかで子どもを育てる

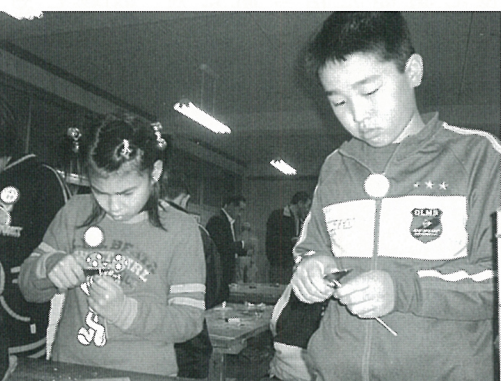
竜丘放課後子ども教室

十一月二十一日(水)に竜丘小学校体育館において、『竜丘放課後子ども教室』の出発の会が、飯田市教育委員会関島教育次長、小学校池戸校長を招き、地域づくり委員会や保護者など多数参加して開かれました。

この教室の発足には、六月から運営委員会を立ち上げ、小学校全保護者を対象にしたアンケートを実施し、そこで意見や要望を聞き、多数の方の賛同を得て、周到な細案を作成して準備してきました。

子どもたちは、この時間に大きな期待をもっていたのでしょつか笑顔を見せな

室・体育館・運動場を学習室にして、毎週水曜日午後三時三十分から五時まで開くのです。



「竹とんぼ」づくりにとり組む子ども

子どもを全体指導するコーディネーター久保田寛人さんをはじめ、創作活動やスポーツなどを指導するスタッフ、安全を見守る管理者、子どもと共に体験しようとする母親たちも勢揃いしました。

子どもたちは、この時間に大きな期待をもっていたのでしょつか笑顔を見せな

竜丘の地域特色をいかに

市政懇談会

最終的に地元へもどり生活する人は四十%程度である。「人も自然も持続可能な地域づくり」を進めるには、若い人たちがいったんは地域から出て、いざれば戻り、安心して子育てをして、次の世代をはぐくむ、長期的な「人材のサイクル」の構築がかかせないのです。

市では、経済活性化プログラムで働く場所の受け皿づくりを行う、結いターンによる人材の誘導を積極的

にすすめる、「地育力」で



市政懇談会